

## 国際協力とみんなの日常

あけましておめでとうございます。2024年は年始から心痛ましい出来事が 続き、不安な気持ちを抱えている人もいるかもしれません。パラオでも『日本、 大変だったね。』『家族や友だちは大丈夫?』と色んな人に声をかけてもらいま した。通常、パラオから日本へ電話をかける際には国際電話料金がかかります が、1月3日から7日までは家族や友人に安否確認などができるようにと無料 でかけられるようになっていました。

パラオに来てから、様々な職種の方との出会いがあります。そのたびに思う ことは、『知識は人生を豊かにするための道具なのだ』ということです。知識と 言うと、勉強しろってことなんでしょ?と思われるかもしれませんが、勉強だ けに限らず、例えば、けん玉やギター、料理など何か得意なことやできること も含まれます。また、大切なことはそういった知識や特技をいつ、どこで、ど うやって、だれに、使うかということです。道具は正しく使えないとうまく機 能しません。後ほど紹介する藤さんは、化学の知識が豊富な方で、その知識を パラオの環境保全のために用いて、色んな人の人生を豊かにしています。

中学生のみなさんは、今からいくらでもその知識を増やすことができます。 勉強に力を入れることも、好きなものを突き詰めることも、今までやってみな かったことに挑戦することも、みなさんの(後々には色んな人の)人生を豊か にする道具になるかもしれません。新たな1年、素敵な1年にしましょう♪

## 【パラオ日記】



★今年はパラオと日本が外交関係樹立 30 周年を迎えるということで、1月に日 本文化を紹介するイベントが行われ、JICA ボランティアも参加しました。私た ちは『福笑い』と去年に引き続き『盆踊り』を実践。当初は福笑いの面白さが パラオの人たちにも伝わるかな…と心配で、『笑う門には福来る』ということ わざを引き合いに福笑いが完成したらみんなで笑いましょう!と声をかけて いましたが、パラオの人たちは福笑いの実践中にも声をあげて大爆笑!会場全 体が温かい笑いに包まれていました。日本の文化を楽しんでくれて、とても嬉 しかったです。



★先日、エコ・グラスセンターで念願のグラスづくりに挑戦してきました。見て いるよりも断然難しく、1 人ではなかなか上手にできませんでしたが、パラオ 人スタッフの Nyssa さんが優しくサポートしてくれました。Nyssa さんはガラ ス工芸を始めて5年ということでしたが、スキルを習得するまでに1年ほどか かったそうです。今では、自分がつくった作品が商品として売られていること が嬉しく、日々誇りをもって仕事に取り組んでいるとのことでした。





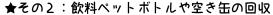
## パラオには、どんな日本人がいるの?part2

パラオには、約250人の日本人が住んでいます。その中でも、レジェンドとしてパラオで20年以上活躍されているのがコロール州のリサイクルセンターで



働かれている藤さんです。藤さんは今年 **80 歳**!日本では環境部門のエンジニアや会社経営などを経験され、60 歳を機に退職して JICA のシニアボランティアとしてパラオで活動を開始。任期終了後もパラオに戻り、独自のアイディアでパラオの廃棄物処理のため に尽力されています。そういった活動が日本政府から認められ、令和3年に旭日単光章を受賞されました。現在も日本語補習校の校長 先生を勤めながら、コロール州政府のコンサルタントとして活躍されています。

★藤さんの取り組みその1:コンポスト(生ごみなどから肥料をつくること)







リサイクルセンターに持ち込むと、 1本5セントが支払われます。この 方法で90%の缶・ペットボトルが 回収されるようになった そうです。

★その3:廃プラスチックからバイオディーゼル燃料産出



機械は日本からの支援で 導入されました。



★その4:廃ガラスからガラス工芸品の製作、販売



✓廃ガラスを溶かすために、廃プラスチックから産出した燃料を使っています。



第 13 号で紹介したように、パラオにはごみの焼却施設はないため、ゴミステバにそのまま捨てられます。そのごみを減らし、リサイクルするために、藤さんをはじめリサイクルセンターの方々は使命感をもって働かれています。

藤さんがシニアボランティアとして活動し始めた頃、リサイクルセンターには藤さんとカウンターパート(一緒に活動する同僚)しかいなかったそうですが、今では80人ほどが働く施設にまでなったそうです。パラオは小さな国なので、誇りをもって働ける場所が少なく、優秀な人材がアメリカなどに流れてしまっているのも課題です。その中で、やりがいをもって働ける場所、雇用をつくることも藤さんの狙いだったそうです。パラオの人たちのために、熱い情熱をもって働かれている姿に感動しました。

